



自然の恵み
たゆまぬ愛情の賜が
人々を満たす

宇目地域は、椎茸の人工栽培技術発祥の地。毎年開催される全国乾椎茸品評会では、常に宇目の生産者が上位入賞を果たす。その中でも特に日本一とされる農林水産大臣賞も数回受賞。



ほおずきの生産額全国一の大分県で、佐伯市は3割を超す出荷量を誇る。主に盆地で寒暖の差が大きい宇目地域で栽培が盛ん。



温州みかんやボンカン、デコボンなどの柑橘類を多く栽培



蒲江地域では、台風シーズンを避けるためにお盆前に稲刈りを終える超早期米を生産。



大分県のスイートピーは栽培面積・生産量ともに全国2位。佐伯市では宇目地域で盛んに生産。



古くから、番匠川の清流と川霧が育む因尾(いんび)茶。独特の香りを持つ。

九州一の広大なやさしさ **Saiki Spirit**
佐伯市

農林業

盆地で寒暖の差が大きい宇目地域では、昔からほおずきの栽培が盛んに行われてきました。生産量は大分県の中でも有数で、出荷最盛期の7~8月になると、ハウス内には色鮮やかなオレンジ色の実が揺れます。

温暖な気候を利用し、蒲江波当津地区では台風被害を防ぐため、収穫時期が県内トップの超早期米栽培も推進しています。このほか、それぞれの地域の特性を活かしてナスやニラなどの野菜、ミカンやボンカンなどの果樹のほか、畜産業や茶の栽培も盛んに行われています。

また、市の面積の9割近くが森林であることから林業も盛んです。豊かに育まれた森林の約半分は人工林で、その約7割をスギが占め、良質な木材を生産しています。クスギやナラを原木とした椎茸の栽培にも力を入れており、全国乾椎茸品評会で農林水産大臣賞を受賞するなど、高品質な椎茸を栽培しています。



佐伯広域森林組合本所及び宇目木材加工場



県内一の森林面積を誇る

しいきいし
さいき
佐伯人

椎茸生産者
岡田重徳さん

昼夜の寒暖の差がある宇目の気候を活かし、父の代から約40年間原木栽培の椎茸栽培を行ってきました。私の代になり農林水産大臣賞を5回も受賞しましたが、受賞のきっかけとなったのはビニールハウスをつくったこと。散水施設で一定の環境を保ちながら栽培ができるため、雨風に左右されずに管理をすることができるのです。また、品質のもととなるほど木作りにも手を抜くことはありません。いいほど木に育てるため2年間、草を刈るなど風通しを良くして最適な環境をつくるのが大切です。椎茸は肉厚で、出荷する商品はすべて乾椎茸のため風味豊か。その美味しさをより多くの方へ届けようと、佐伯市のイベントに参加してPRに努めています。

